コメント

日本共産党東京都議会議員団が、継続して取り組んでいる。都内のほぼ全域を対象とした空間線量率と土壌の放射性核種（セシウム 134+137）濃度について、最新の結果が出ました。

この１年間に若干の減衰はありましたが、それでも今なお臨海部や東部地域の広い範囲で、1 キログラム当たり数万ベクレルという汚染スポットの散在が確かめられたことは、学術的にも貴重なデータです。言うまでもなく、この値は低レベル放射性廃棄物の事故前の処理基準を大幅に上回るばかりか、事故後の、廃棄物処分場での暫定受け入れ基準、1 キログラム当たり 8,000 ベクレルをも遙かに超えています。

今回確かめられた汚染スポットは、誰もが行き交う場所にあるものも多く、公衆の被曝線量を極力抑えるという見地からは、繰り返し述べているように、行政の早急な対応を望んでやみません。

特に、今回東京都はオリンピック招致に名乗りを上げました。広報の基礎データには、長所・利点を歌い上げるだけではなく、首都直下地震の危険度評価等に加えて、東京とその近郊が、福島原発事故による放射能汚染を蒙っているという明白な事実も、包み隠さずに示すべきだと考えます。外国からの選手や観客が、そのような事実を知った上でなお東京を選んでくれるかどうかを、率直に問いかけること――それこそがフェアプレーの精神に叶うことではありませんか？

2012 年 6 月 8 日

日本科学者会議災害問題研究委員会・委員

坂巻幸雄